

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年4月10日(2008.4.10)

【公表番号】特表2004-531502(P2004-531502A)

【公表日】平成16年10月14日(2004.10.14)

【年通号数】公開・登録公報2004-040

【出願番号】特願2002-576255(P2002-576255)

【国際特許分類】

C 07 C	29/145	(2006.01)
B 01 J	31/24	(2006.01)
C 07 C	33/18	(2006.01)
C 07 C	33/22	(2006.01)
C 07 F	9/50	(2006.01)
C 07 F	9/53	(2006.01)
C 07 B	53/00	(2006.01)
C 07 B	61/00	(2006.01)

【F I】

C 07 C	29/145	
B 01 J	31/24	Z
C 07 C	33/18	
C 07 C	33/22	
C 07 F	9/50	
C 07 F	9/53	
C 07 B	53/00	B
C 07 B	61/00	3 0 0
C 07 M	7:00	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年2月19日(2008.2.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

触媒、塩基および選択的にジアミンの存在下にカルボニル化合物と水素を反応させる非キラルまたは光学活性アルコールの調製方法であって、

前記触媒が、担体結合ビスフォスフィン配位子、およびジアミン配位子を含むRu(II)錯体であり、式(1)：

[担体]-[選択改質]-[結合基]-

-[ビスフォスフィン >RuHal₂< ジアミン]

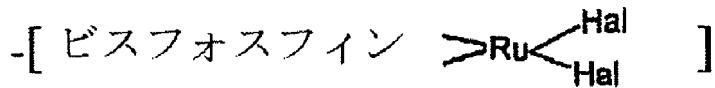
(式中、Halは、ClまたはBrを表す)

の形態で用いされることを特徴とする調製方法。

【請求項 2】

請求項 1に記載の調製方法において、前記式(1)の形態に代えて、式(2)：

[担体]-[選択改質]-[結合基]-



(式中、Halは、ClまたはBrを表す)

の形態で用いられ、前記塩基及び前記ジアミンの存在下、in situにて前記触媒が形成されることを特徴とする調製方法。

【請求項 3】

前記触媒が、担体結合キラルビスフオスフィン配位子、およびキラルジアミン配位子を含むことを特徴とする請求項1に記載の調製方法。

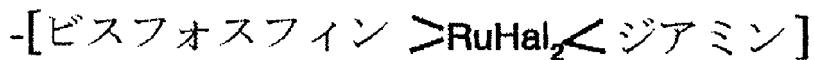
【請求項 4】

前記触媒中にアトロブ異性ビスフオスフィン配位子が存在することを特徴とする請求項3に記載の調製方法。

【請求項 5】

式(1)：

[担体]-[選択改質]-[結合基]-



(式中、Halは、ClまたはBrを表す)

で示される形態で用いられる Ru(II)錯体触媒。

【請求項 6】

前記担体が、SH基を含む無機担体であり、重合可能なビスフオスフィンまたはその誘導体が、前記無機担体に連結されていることを特徴とする請求項5に記載のRu(II)錯体触媒。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0004

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0004】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するために本発明の第1の態様は、触媒、塩基および選択的にジアミンの存在下にカルボニル化合物と水素を反応させる非キラルまたは光学活性アルコールの調製方法であって、前記触媒が、担体結合ビスフオスフィン配位子、およびジアミン配位子を含むRu(II)錯体であり、式(1)：

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

[担体]-[選択改質]-[結合基]-

-[ビスフオスフィン >RuHal₂< ジアミン]

(式中、Halは、ClまたはBrを表す)

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

の形態で用いられることを特徴とする調製方法である。本発明の第2の態様は、前記式(1)の形態に代えて、式(2)：

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

[担体]-[選択改質]-[結合基]-

-[ビスフオスフィン >Ru<_{Hal}^{Hal}>]

(式中、Halは、ClまたはBrを表す)

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

の形態で用いられ、前記塩基及び前記ジアミンの存在下、in situにて前記触媒が形成されることを特徴とする調製方法である。本発明の第3の態様は、前記触媒が、担体結合キラルビスフオスフィン配位子、およびキラルジアミン配位子を含むことを特徴とする調製方法である。本発明の第4の態様は、前記触媒中にアトロブ異性ビスフオスフィン配位子が存在することを特徴とする調製方法である。本発明の第5の態様は、前記式(1)で示される形態で用いられるRu(II)錯体触媒である。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

本発明の第6の態様は、前記担体が、SH基を含む無機担体であり、重合可能なビスフオスフィンまたはその誘導体が、前記無機担体に連結されていることを特徴とするRu(II)錯体触媒である。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

水素化の間、同時に塩基、およびジアミンの両方を反応混合物として存在させるならば、式2で示した担体-結合、不溶性触媒を用いて水素化を行うことができる。この場合、式1の触媒はin situにて形成される。ここで、H_a1はC₁またはBrである。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0099

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0099】

式1の担体-結合触媒の調製に対して好ましい光学活性アミンは、キラルジアミンであり、特に1、2-ジアミノ-エタンおよび1、2-ジアミノシクロヘキサンから導かれたものであり、置換基として、選択的にC₁-C₈-アルキル、C₄-C₈-シクロアルキル、C₆-C₁₀-アリル-C₁-C₈-アルキル、C₂-C₈-アルケニル、および/または選択的にC₁-C₈-アルキルと置換できるC₆-C₁₀-アリル基、および/またはC₁-C₈-アルコキシを含むものである。